

上原賞受賞者



受賞者氏名： 松本 邦弘（マツモト クニヒロ）工学博士

所属機関および役職： 名古屋大学大学院理学研究科名誉教授

生年月日 昭和26年 12月 8日生

略 歴	昭和49年 3月	大阪大学工学部醗酵工学科卒業
	51年 3月	大阪大学大学院工学研究科修士課程修了
	52年12月	鳥取大学工学部工業化学科 助手
	60年 3月	米国 DNAX 分子生物研究所 主任研究員
平成	2年 6月	名古屋大学理学部分子生物学科 教授
	8年 4月	名古屋大学大学院理学研究科 教授
	29年 4月	名古屋大学大学院理学研究科 名誉教授・シニアリサーチフェロー

受賞対象となった研究業績

「動物の発生・分化を制御する情報伝達機構の解明」

細胞の増殖・分化は、様々な情報伝達システムによって制御されており、その分子機構の解明は、生物学的・医学的に極めて重要である。酵母の情報伝達系を利用した哺乳動物遺伝子の単離という独創的手法を開発し、情報伝達経路を制御する新規遺伝子群の同定に成功した。その一つは、動物の発生・分化課程に重要な増殖因子である $TGF\beta$ によるシグナル伝達に必須のセリン・スレオニン蛋白質キナーゼであることを見出し、**TAK1** と命名した。続いて、**TAK1** に結合し、活性化を促す2個の蛋白質 (**TAB1**, **TAB2**) を同定し、 $TGF\beta$ によるシグナルを増強させることを示した。そして、これら因子の生理作用を線虫やマウスを用いて解析し、動物の初期発生において細胞の運命の決定に関与していること、さらには、炎症やがん化などの生体反応に強く関わっていることを明らかにした。発生と分化を制御する情報伝達機構を解き明かした先駆的な研究業績である。